

INDEX

1 スマートフォンを使ったプレゼン相互評価ツールのご案内

FD推進センター開発プロジェクトでは、情報メディア教育研究センターの協力のもと、教育方法および教育支援ツールの展開を行っています。そのうちのひとつである「プレゼンテーション相互評価支援ツール PEAS」をご紹介します。

2 法政教員の輪

～14人の輪がつながっています～

2014年度12月から始まった法政教員の輪の取り組みも、現在までで14人の「教員の輪」がつながりました。ダイジェストとして、カテゴリごとに分けてご紹介します。

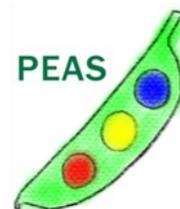
発行：
法政大学
教育開発支援機構
FD推進センター

ホームページ
<http://www.hoseikyoku.jp/fd/>

問い合わせ先
fd-jimu@hosei.ac.jp

1 スマートフォンを使ったプレゼン相互評価ツールのご案内

FD推進センター開発プロジェクトでは、情報メディア教育研究センターの協力のもと、教育および学びの質の向上を目的とし、すべての教員が使える教育方法および教育支援ツールの展開を行っています。



今回は、教育支援ツールのうちのひとつである「プレゼンテーション相互評価支援ツール PEAS(ピース)」をご紹介します。

PEASはデザイン工学部兼任教員の豊島純子先生との共同研究で開発されたシステムです。きっかけは先生が担当される「プレゼンテーション技術」という授業への支援から始まりました。学生のプレゼンテーションを学生が相互評価する授業内容のため、これまでは紙の評価シートを使い、履修者が30名の授業でも900枚の用紙を要していました。さらに結果データを集約してそれぞれの学生に評価を返却する作業は、TAがいても相当な手間と時間がかかっていました。

この課題を解決するために、評価される学生のプレゼンテーションを終了した後に、**出席しているすべての学生がPCおよびスマートフォンから評価を入力できるシステムを開発しました。** 図1は教員が操作する画面事例、図2,3は学生の画面事例です。こうしたプレゼンテーション相互評価はどの学部でも行われておりますが、2015年度秋学期には経済学部のゼミで本ツールを使用いただき、教員から高い評価を得ました。



図1 教員の操作画面(PC) 画面中央に学生一覧が表示されている。評価する学生を指定すると、学生氏名右のボタンが赤くなり、教室にいる学生が評価を入力できるようになる。

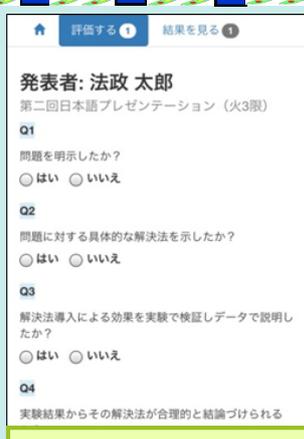


図2 学生による評価入力画面(スマホ)



図3 学生の評価結果確認画面(スマホ)

PEASのメリット

学生側：評価される側の学生にとっては、豊島先生の長年の研究成果に基づいたStory Message, Visual Message, Physical Messageの視点から総合的にプレゼンテーションを評価され、優れた点および改善すべき点がプレゼンテーション終了直後にかかる。評価する側の学生はプレゼンテーションを評価しなければならないので、必然的に参加型授業となり、結果としてアクティブラーニングが実現される。

教員側：これまでは提出された評価シートの点数をExcelに2,3日かけて転記していた手間が削減され、記述式コメントは評価シートを一枚一枚めくって確認していたが、PEASでは一覧表示されるため総合的な評価ができる。

FD推進センターでは情報メディア教育研究センターと協力し、2016年度にはPEASの全学利用をめざし準備を進めています。お試しになりたい場合は、FD推進センターまでご一報ください。

2 法政教員の輪 ～14人の輪がつながっています～

2014年度12月から始まった法政教員の輪の取り組みも、現在までで14人の「教員の輪」がつながりました。以前FD推進センターよりご紹介しましたARCSモデルなど、カテゴリに分類してダイジェストとしてご紹介いたします。今まで忙しくご覧いただけなかった方も、この機会に是非ご覧ください。

FD推進センターホームページ <http://www.hoseikyoiku.jp/fd/>



↓以下に記載の回数は、ホームページへの掲載回を示しています。

ATTENTION

RELEVANCE

●知的レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引く工夫

- 6回目 理工学部 小屋多恵子先生
- 8回目 理工学部 小林一行先生
- 9回目 経済学部 藤田貢崇先生
- 13回目 生命科学部 佐藤勉先生

身近な例えの活用

●学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつける工夫

- 3回目 経営学部 佐野嘉秀先生
- 7回目 キャリアデザイン学部 児美川孝一郎先生
- 12回目 社会学部 荒井容子先生

今週の科学ニュースで興味をひく

ウォーミングアップの効果

●学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつける工夫

- 2回目 理工学部 川上忠重先生
- 3回目 経営学部 佐野嘉秀先生
- 14回目 総長室 鈴木美伸先生

ライフラインチャート

CONFIDENCE

SATISFACTION

●成功が学生の能力や努力によるという自信を持たせる工夫

- 10回目 デザイン工学部 網野禎昭先生

「地獄の演習」は、学生への贈り物

●学習者が内発的な興味を発展させるために新しく獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与える工夫

- 5回目 国際文化学部 大嶋良明先生

手書きの効果とコメントのフィードバック

●学生の成功に対するコメントや賞賛を与える工夫

- 1回目 文学部 小林ふみ子先生
- 2回目 理工学部 川上忠重先生
- 4回目 情報メディア 常盤祐司先生
- 6回目 理工学部 小屋多恵子先生

アクティブラーニング

教材

グローバル

- 1回目 文学部 小林ふみ子先生

学生に書かせて、メリハリのある双方向授業

- 11回目 社会学部 鞠子茂先生

留学生向けに手間をおさず教材を作成

- 11回目 社会学部 鞠子茂先生

大教室

IT

省察

- 3回目 経営学部 佐野嘉秀先生
- 7回目 キャリアデザイン学部 児美川孝一郎先生
- 12回目 社会学部 荒井容子先生

バズセッションと黒板の活用

- 6回目 理工学部 小屋多恵子先生
- 8回目 理工学部 小林一行先生

授業支援システムをつかった落ちこぼれを出さない工夫

- 5回目 国際文化学部 大嶋良明先生

学生に講師役をやらせて、復習を促進

講義形式

フィードバック

NEXT?!

- 3回目 経営学部 佐野嘉秀先生

板書、PPT、プリント、投影を駆使したメリハリ授業

- 2回目 理工学部 川上忠重先生

学生の声から情報収集した授業づくり



是非、先生方の授業の工夫をご紹介ください！